

【情報の種類と質について】

(1) 2次情報と1次情報

(1) 1次情報・・・なんの Referral もなく、事実として認識されるもの。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 政府統計 | 4 個人の日記 |
| 2 国会の議事録 | 5 アンケート結果（原票） |
| 3 新聞記事の一部（?） | 6 実験結果 |

(2) 2次情報・・・1次情報（資料）をもとに書かれたもの。

- 1 図書
- 2 雑誌記事（逐次刊行物に掲載されている論文など）
- 3 その他

(2) 2次情報の情報源と情報の質・・・どのような出版形態であっても玉石混交であることに注意。

(1) 図書

- 1 一般向き図書
- 2 学術図書

(2) 逐次刊行物記事

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 新聞の記名記事の一部 | 4 年鑑 |
| 2 一般雑誌 | 5 同人誌のような自主刊行物 |
| 3 専門雑誌 | |

(3) インターネット上の情報

(4) その他

※これらのどの情報も玉石混交であるが、一般に定評のある出版社などから出されているもの、また他の著作などで多く引用されている文献はより質が高く、信憑性があるとみなされる。

(3) 文献内に現れる情報の峻別（レトリックの問題を含む）

- 1 一般的な知識・・・（例）「地球は球形に近い」
- 2 客観的な情報・・・（例）「日本の人口は、推計によると平成 16 年 11 月 1 日付けで 1 億 2 千 700 万人程度とされている。」
- 3 著者以外の意見と評価・・・

（例）「田中および溝田(2005.02.19)はウェブサイトの売上貢献度の基本的な測定対象値を示し、ただ単にアクセス数だけを貢献度の基準として採用することは不十分であることを示している。」

- 4 著者の意見と評価・・・（例）「（著者は）文献の 2 次情報を正しく引用することは、学術研究に携わるものの最も基本的なモラルであるといえる。（と考える。）」（受身文で表されることがおおく、日本語では主語を省略した形で能動文であらわされていることも多い。）

※ これらの情報は、一つの文章にこれらの形態の情報が入り混じっていることが往々にして起こっているため、情報を峻別する必要がある。

(例)「公的な保険制度を備える日本の医療保険制度は、アメリカのものよりも、はるかに勝っているという見解には、私も全く同感である。」

【コメント】

【川野先生からのコメント】

新聞や雑誌の記事の場合（正確にも「一部」と書かれていますが）、やはり官公庁の発表や配信会社の記事を再現なり解釈なりしている記事は2次資料とみなし、独自の取材に基づいたものなどを1次と見るべきかと思います。たとえば記者会見などで、発表内容の資料が配布された場合には、その資料が1次でそれに関する記事は2次になり、口頭発表がそのまま全文載っている場合は一次と見なすのかというような、微妙なことになるかと思います。一方で新聞社独自のアンケート調査の結果は一次とっていいと思います。しかしこれも最近は委託していたりして、記事段階で加工度が高いとどうするかとか、難しいですね。

基本的には情報の発生と記録が同時に起こっている場合や、その情報が最初に記録された場合に一次資料と見なすといっていいんですが、微妙なケースも多いかと思います。

【中村宗悦先生からのコメント】

1次資料の「説明」はおおむねこれで良いと思いますが、具体例として挙げられているものでも「編集され、加工されたもの」は厳密には1次資料とは言いにくいと思います。

たとえば、吉田茂の「自筆日記」は1次資料でしょうが、印刷され公刊されたものは、普通、1次資料とは言わないです。意外に転記のミスなどあるものです。

それから、国会（あるいは帝国議会）の議事録も「速記録」が大体の場合存在していますので、そちらを1次資料として使う場合もあります。

書籍という形になる前の自筆草稿なども1次資料ですし、書簡類も1次資料ですね。統計やアンケートも加工されたものしか残っていない場合は、それを1次資料として扱っても咎められないかもしれませんが、個票がある場合はそちらを1次資料としたほうが良いでしょう。

いずれにせよ厳密な資料批判を要求される場合は、何を1次資料とするか、細心の注意が必要です。

また1次資料であっても「事実」とは認められない、あるいは疑わしいという場合もあります。いわゆる「偽書」「偽文書」の類いですが、こうしたものもありうるということは、注意を喚起しておく必要があるかもしれません。

平成 17 年度・前期・学期
文献調査研究
岡村與子(t037778@t.daito.ac.jp)

大東文化大学経済学研究科
【情報の種類と質について】.doc
2006/04/12